

き皇子のルーツ、道真公が京都から左遷され、幽閉された時のこと。老臣(浄妙尼)が道真公の心をいやすために差し上げた餅が始まりと書われています。1100年の時を超えて、今に伝わる焼き菓子「餅わい」は格別です。櫻社裏には、浄妙尼をお祀りした浄妙尼社があります。

◎道真公の御霊よ、安らかに。 道真公は、櫻社で謹慎の身として亡くなるまで2年の歳月を過ごしました。貴人である道真公の遺体を京に運ぶことになりました。しかし、現在の天満宮で牛が動かなくなりここに遺体を葬ることになったのです。毎年行なわれる秋の大祭は、櫻社まで御霊を神輿でお連れし一泊していただき、天満宮にお降りになるという行事です。道真公の御霊が幾久しく安らかに眠られるようお願いをこめて行なわれています。

◎道真公にモーツとお願ひ。 道真公が生まれたのは、乙丑(きのとうし)の年。また、この土家府で亡くなられた後、遺体は都府種の北原(うしとら)の方向へ向かって漂み、牛車の止まったところに葬られました。自分の体と同じ神牛の部分を、祈念を込めて互いに撫でさせれば身体健全はもとより病気全快するといわれ、神牛の頭部を同じように撫でさせれば、回復が付くという信仰があります。



▲天満宮のモーツ

◎一千年の大樹の森で森林浴。 土家府天満宮の敷地内には、1月末から3月まで127種約5000本の梅の花を、3月末から5月頃の新緑時にほぼ満開1500年とも言われる大樟を営む約100本のクスノキの香りを楽しむことができます。クスノキのうち2本は国の天然記念物、40本は「天神の森(神)」として県指定され保護されています。この緑豊かな環境は、「土家府天満宮の梅園とクスノキの森」として環境省認定の「かおり風景百選」にも選ばれています。



▲「かおり風景百選」の天満宮の梅園とクスノキの森